

## 相手のことも考えよう

校長 相川 保 敏

昨年度は行わなかった水泳指導が20日から始まりました。今後予定されている4年生以上の宿泊的行事も、コロナウイルス感染症対策を行いながら、実施していく予定です。少しずつですが、学校生活は正常に近づいています。一日も早く、子どもたちが安心して、友達と議論したり、歌を歌ったり、運動できたりする日が戻ってきてほしいものです。

一方で、なかなか解決の糸口を見い出せないのが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻です。すでに、4ヶ月が経ちます。正当な理由もなく他国に侵攻することに世界が驚愕し、非難し、経済制裁を加えましたが、ロシアの侵攻はとどまることはなく、停戦協議も不調に終わっています。欧米諸国はウクライナへの兵器供与をさらに進め、プーチン大統領は対抗して核兵器の使用も辞さない構えを見せています。

ところで、皆さんは、SEKAI NO OWARI というバンドグループをご存じでしょうか。彼らの楽曲の中に「Dragon Night」という曲があります。その歌詞の中にこんなフレーズがあります。

人はそれぞれ「正義」があって、争い合うのは仕方ないのかも知れない  
だけど僕の嫌いな「彼」も彼なりの理由があると  
おもうんだ

軍事侵攻を擁護する気はさらさらありませんが、この歌詞のように、ロシアのプーチン大統領にも、彼なりの「正義」があり、「理由」があるのだろうと気付かされます。

かつて、日本も今回のロシアと同じような軍事侵攻を繰り返した歴史があります。それは「満州事変」です。満州事変とは、ご存じの方も多いと思いますが、1931年に中国の遼東半島に駐留していた日本軍（関東軍）が中国軍からの攻撃を受けたと偽り、軍事侵攻し「満州国」を建国した事件です。日本の行為は多く

の国から猛烈な批判を受け国際連盟から脱退しました。そして、経済制裁を受け、太平洋戦争に突入していきました。ヨーロッパでも国際連盟から脱退したドイツ、イタリアが軍事侵攻を進め、世界中が戦火にさらされる第2次世界大戦となってしまいました。

当時の国際社会は解決方法や妥協点を見い出せず、悲惨な結果を招きました。今回のロシアの軍事侵攻が世界大戦につながっていかないことを強く願います。当時に比べ、世界の国々は多くの経験を積み、多くのことを学んでいます。国際社会は、ウクライナとロシアの両者が納得できる合意点を見い出していかなくてはなりません。過去に他国に軍事侵攻した経験をもつ国々こそ、ロシアを非難するだけでなく、ロシアの考える「正義」とは何なのかを考え、解決の糸口を見出す努力をする必要があると考えます。自国の歴史から何かが見えてくるかもしれません。

さて、今月の生活目標は、「相手のことも考えよう」です。子どもたちも、日常生活の中で友達と意見が合わない、相手の行動が理解できないといったことが少なからずあります。相

手を非難することは簡単ですが、「相手のことも」考えることで、説得できたり、妥協点を見出したりすることができる可能性が出てきます。これからの社会はますます多様化が進み、これが正解であるというものはい出しにくくなります。粘り強く、多くの人々が納得できる納得解を導き出していく力が必要とされます。自分たちの力で納得解を見い出していけるように、周囲の大人はすぐに仲介するのを我慢し、適切な距離を置いて支援することも必要ではないかと考えています。

